



卵胞を活性化する PRP（多血小板血漿）療法

2023 年 6 月 25 ～ 28 日にデンマーク・コペンハーゲンで開催されたヨーロッパ生殖医学会（ESHRE）で発表された研究のうち、フェルチクリンの中野英二医師が注目したのは PRP（Platelet Rich Plasma＝多血小板血漿）療法により妊娠率が上がるという報告だった。

PRP 療法とは、治療を受ける女性の血液から抽出した高濃度の血小板（platelet-rich plasma:PRP）を子宮内に注入する方法で、PRP 注入には 2 種類（卵巣・子宮内膜）がある。血小板に含まれる成分因子により、組織の成長促進が期待でき、卵巣に注入すれば、卵巣周囲の血管新生が促進されることにより、卵巣機能の改善が期待できる。それにより、卵胞が育成されて採卵数が増加し、卵子の質の向上にもつながる。

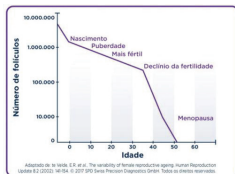
今回の学会では PRP 療法による事例が世界各国の 6 人の医師から報告された。5 人がこの治療により卵胞の数が増えて妊娠率が高まったとポジティブな結果を示した。1 人は変化が見られなかったと報告したが、通常、この療法は 2、3 か月に 3 回ほど行われるのに対し、この医師は 1 回しか行っていなかった。

PRP 療法が検討されるのは、AMH（アンチミュラーリアンホルモン：発育過程の卵胞から分泌されるホルモン）が低い、卵胞が育たない、卵巣刺激しても卵子がほとんど取れない、良好な胚が取れないなどのケー

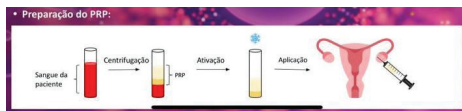
スである。更年期に入った女性は、卵胞が急激に減少していく年齢に PRP 療法を行うことで、卵胞が再活性化して、妊娠率が高まることも報告された。フェルチクリンでも 2 年前から卵巣への PRP 注入の治療を行っており、それにより妊娠、出産したケースもある。

●年々高まる体外受精の妊娠率

体外受精が始まったばかりの 1980 年代初めの成功率は 5 ～ 10 % だった。しかし、年々新しい不妊の原因が見つかり新たな治療法が導入されてきたことで、成功率は高まっている。近年では、胚の段階で染色体検査を行って、優良な胚だけを選んで子宮に移植することもできるようになり、不妊治療全体で成功率は 50% に達し、最先端の不妊治療を導入しているフェルチクリンでは 60% に達する。



《年齢ごとの卵胞の数》



《PRP療法（卵巣への注入）の図》

＊『フェルチクリン』の中野英二医師に解説していただきました。

フェルチクリン FERTICLIN

Av. Indianópolis, 1960 - Planalto Paulista- São Paulo - SP

Tel: (11) 5581-2045 / 5581-3566



(11) 99666-1455

www.ferticlin.com.br / contato@ferticlin.com.br

